

令和6年度 認定こども園 わだ 幼稚園評価

○目標・方針

園運営の理念・方針	園の重点目標
<p>生きる力の基礎を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の可能性を信じ、自信をもって生きる力の基礎を培う ・将来自由意志（自分の事は自分で決められる）が発揮できる基礎的な力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の定着を図る ・生き生きと自分らしさを発揮し、感じたことを素直に表現する ・自然に恵まれた環境の中で、身近な自然に対する関心をもち、好奇心や探求心を高める

○自己評価

*達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	園の取組み状況と改善の方策	自己評価の各観点に対する評価
園運営	開かれた認定園づくり 子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりや年2回の広報誌の家庭や関係機関へ配布、又 ホームページの活用による園の活動状況の公開 ・「親と子の育ちの場」としての役割や機能の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりや献立、はぐくみだよりはホームページで配信し、園の取組みを知って頂くよう取り組んだ。園全体の活動の配信を心掛けたが、配信のしにくさや、見にくさがあったので、来年度からのリニューアルに向けて配信を工夫していきたい。・子育て支援の推進としての園庭開放日、図書コーナー開放日では、開始時間などをメールで配信したことで、参加される家庭が増え親子でゆったりと過ごして頂くことができた。・今年度は、はぐくみの参加率が増えたが、案内を配布しても未登録のまま返信のない家庭もあり、啓発の難しさを感じた。無理に誘わず機会を捉えて声を掛け、親子の育ちの場として充実を図ってきたい。 	開かれた園づくりにおいては、ホームページのリニューアルがなされ、園全体の活動や、子ども達の様子などの細やかな配信を心掛けようとする取り組みに期待できる。イロドリノクの毎日の配信が担任の負担にならないように業務改善の検討も必要なのではないか。子育て支援の推進においては、土曜日の園庭開放日の工夫、自由に親子で遊べる環境づくりがなされ、はぐくみだけでなく園の保護者支援もでき良い拠点となっている。ただ、個別懇談や教育相談においては家庭との連携が足りなかったようなので、保護者がいつでも相談しやすい体制づくりを期待する。
	遊びを通しての総合的な指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら選んで遊ぶ意欲や関心を高める環境構成の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が、心を動かす豊かな体験ができるように、子どもの関心を促す主体的に様々な素材に触れられるよう環境の工夫を行った。また、丹波市教育委員会主催の公開保育を受け、主体的に遊ぶ子ども達の姿を参観してもらった。今後も年間を通し年齢に応じて、様々な環境に関わりながら学びを深められるよう取り組んでいきたい。 ・子ども達は日々の遊びを通して、挑戦する、真似をする、工夫する、集中するなどの意欲を育んでいる。友達とのやり取りを通してコミュニケーション力が育ち、友達と遊びを展開する姿が見られた。 	細やかに色々な経験をさせている。保育教諭が、年齢に応じた遊びの環境を構成していく中で、子どもの興味関心が捉えられ、毎日、繋がりのある遊びが展開できるように、保育教諭間の連携を大切にしながら取り組んでほしい。公開保育を受けることは、保育教諭のスキルアップにもつながり良い機会となったと思う。
教育課程	基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の自立に向けた援助 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の積み重ねを大切に、年齢に合わせた細やかな援助を心掛けた。基本的な生活習慣が確立することにより、活動への意欲が高まり、活動内容や行動範囲が広がる。生活アンケートや個別懇談を実施することにより、園と家庭と同じ方向を向き一人一人の成長に繋がるように連携を図ってきたい。 	挨拶は永遠の課題であり、園や子どもだけで出来るものではない。園児は、送迎時にも元気な挨拶をしてくれる子が多い。まずは大人から元気な挨拶をしていくことが大切なのではないか。今後、園、保護者、地域と連携を密にし、誰とでも気持ちのよい挨拶が交わされるような関係づくり、取り組みも検討して欲しい。
	幼小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と交流活動を通しての円滑な接続 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して各就学先の小学校と、交流会や体験登校などを経験し、小学校への憧れの気持ちが芽生え、不安なく就学に向かえる機会となっている。来年度は、5歳児から1年生までの、2年間の架け橋プログラム（文科省）に向けて取り組み、より円滑な接続となるよう職員間の連携を図っていく。 	年間を通して、計画的に交流が出来、校区外とも連携がとれ同様に、子ども達も不安なく就学が出来る体制がとれている。教師・保育教諭がお互いの教育・保育の共通点・発達を理解できるよう架け橋カリキュラムを作成されることで、今以上の幼小の連携がとれることを期待する。
	道徳性の芽生えの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの思いを伝え合う話し合いの場の設定 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動の中で、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを知り、認め合う体験を多く取り入れた。・異年齢児交流では、異年齢児への配慮や声掛けの仕方が分かり、相手の立場に立った関わりの工夫ができた。今後も一人一人の思いを大切にしたい。 	友達との関わりの中で、自分に自信がなかったことも、友達の努力する姿を見て刺激を受け、自分なりの目標を決めて努力する力がついてきた。又それが自信となり友達に教え、共に達成を喜び合うなどの様子も見られ、よい友達関係が出来ていると思う。日常的に子ども達の思いを大切に、肯定感が育つような取り組みを期待する。
課題教育	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育 ・保健 ・食育 ・特別支援教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で体験に基づく安全教育の実施 ・発育発達に適した生活を送るための保健活動の実施 ・五感で楽しみ、心で味わう食育活動の実施 ・一人一人の成長発達に合わせた教育活動の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育では毎月様々な場面を想定し、避難訓練が実施できた。11月からは予告なしで訓練を毎月実施したが、子ども達は職員の指示に素早く反応し落ち着いて避難することができた。・保健、食育では、看護師や栄養士から毎月ねらいをもって指導を行った。子ども達へは、学んだ内容が生活の中で浸透してきているが、保護者の方には活動の内容が伝わりにくかったと感じた。・特別支援教育においては、集団生活の中で、一人一人に合わせたきめ細やかな支援を行っている。今後も保護者との合意形成を図りながら、指導内容の充実を図ってきたい。 	安全教育の中の遊びや生活の中で、体験に基づく防災・生活・交通安全教室の実施については、常に子どもの安全を考え、色々な場面を考えたが安全教育を取り組んでいる。発育発達に適した生活を送るための保健活動の実施や食育については、看護師や栄養士を通じて毎月ねらいをもって子ども達への指導していただき園生活では浸透しているが、保護者には活動内容が伝わりにくい面があったようなので、子どもを通して保護者に理解を求めるのではなく活動内容のより具体的にわかりやすい配信が必要なのではないか。特別支援教育においては一人一人の成長発達に合わせた指導計画が立てられ、教育活動のきめ細やかな取り組みが出来ている。

幼稚園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

<p>園運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しくなったホームページの活用により園の活動の様子などを配信し、園、保護者、地域とのつながりを深め、地域の子育ての拠点となるよう務める。 <p>教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人・もの・自然・生き物との関わりなど、心が動く直接的な体験が積極的にでき、挑戦・意欲を育めるような環境を整える。 <p>課題教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なマニュアルの見直しと、バス運行時の事故対応に向けたマニュアルの作成とその共通理解に取り組む。 <p>令和7年3月31日 社会福祉法人和田福社会 認定こども園 わだ 園長 方山 さがみ 印</p>
--

<p>自己評価の実施方法についての評価</p> <p>保護者からみた園運営、子どもの成長を通してみた園活動に分けてアンケートを取ったことで、保護者も回答しやすく、年齢によっての結果がよく分かるようになったと感じる。結果が次年度に活かせるような評価になるよう取り組んでほしい。</p> <p>幼稚園関係者評価のまとめ</p> <p>園側は本当に色々な体験が出来るように、日々取り組んでいたに色々な体験が出来るように、その取り組みについて、利用している保護者側がしっかり理解できていないことから、子どもが自分から園の事を話さない、保健の取り組み、食育活動がわからないと言われるのではないかと、保護者の理解を得るための働きかけの工夫も検討してほしい。</p>
--